令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　枝光　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域では、「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。 評価の観点では、「思考・判断・表現」力を問う問題に課題がある。
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題に課題がある。 人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題に課題がある。

算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域では、「変化と関係」は良好な状況にある。「図形」領域に課題がある。 評価の観点では、「思考・判断・表現」力を問う問題に課題がある。
	よくできた問題	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題について理解が高い。
	努力が必要な問題	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する問題に課題がある。 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題に課題がある。

理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域では、「地球」を柱とする領域で課題がある。 評価の観点では、「思考・判断・表現」力を問う問題に課題がある。
	よくできた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことについての理解が高い。
	努力が必要な問題	情報を基に、実験の方法を検討して、自分の考えをもつことに課題がある。 観察・実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・単学級でクラス替えがないため、人間関係(友達関係)がある程度確立している。 ・自分が変わっていくことよりも、クラスの中で安心できる居場所を求める傾向が強い。 ・学校生活をよりよくするため、解決に向けて話し合うことに対して前向きである。考えを広め、深めていこうとする姿勢がうかがえる。 ・全員が「将来、人の役に立つ人間になりたい」と思っており、そのためにやらなければならないこと、努力すべきことを模索中である。 ・新聞を読んでいる児童の割合が低く、地域や社会についての関心に個人差が見られる。 ・タブレットPCの活用の度合いは増えたが、情報の収集など、その有用性についてはまだ感じ取れていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・朝自習の時間に計算タイムを設け、基礎基本の習熟と課題領域の学力の定着を図る。
・継続的に自主学習ノートの取組を進めることで、家庭での学習に対する意欲や学習の質が高められるようにする。
・国語科や総合的な学習の時間、朝自習の時間などに、タブレットPCの活用、学校図書館の活用等を推進し、時事について関心を深めさせるとともに、語彙を増やし、社会事象等に対する自分の考えをしっかりともてるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・朝の健康チェックの際、あいさつを推奨する掲示や声かけを行うことで、進んであいさつをする習慣を身に付けさせる。
・1日3回、手洗い歌を流すことで、手洗いの習慣を身に付けさせるとともに、時間を守って行動することも意識づける。
・児童の自尊感情のさらなる高まりを目指すため、学校だより、学年だより、懇談会等を通じて保護者への協力を図る。児童のがんばりだけでなく、学校で目指していることを家庭に向けて発信していく。
・中学での入学説明会の前に、中学校の先生方を招き、中学での学びや生活全般について話を聞く機会を設ける。